



学修方法	事前の文献レビュー，プレゼンテーション，ディスカッションにて行う。
評価方法	課題の取り組み (50%)，プレゼンテーション (50%)
課題に対するフィードバック	各回のプレゼンテーション時にフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	各回，各自のテーマに関する先行研究のレビュー等，発表に必要な準備を 60 分程度はすること。
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション科学研究科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します

科目名	理学療法科学特論Ⅱ		
科目責任者	金原一宏		
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋		
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる		
科目概要	解剖学、生理学、神経科学、運動学および運動生理学を中心とした理学療法の基礎学問を学び、実験的な研究手法を用いて理学療法分野の基本となる課題を解決するため、研究機器の測定方法、データの読み方および解析手法など、実験的研究で必要な技術について学修します。		
到達目標	1. 理学療法科学特論Ⅰで学んだ、実験的な研究方法で用いられる測定機器の基本原理と測定方法、データの信頼性と妥当性の検証について説明できる。 2. 実験的研究法による簡単な研究計画を作成、データを測定し統計学的分析を行い、研究結果をまとめ、発表、ディスカッションができる。		
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 金原一宏、大城昌平、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠、俵祐一</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;"> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、教員紹介</p> <p>第2回：測定機器の学修と研究計画の作成①</p> <p>第3回：データ測定①</p> <p>第4回：データ分析と発表準備①</p> <p>第5回：測定機器の学修と研究計画の作成②</p> <p>第6回：データ測定②</p> <p>第7回：データ分析と発表準備②</p> <p>第8回：測定機器の学修と研究計画の作成③</p> <p>第9回：データ測定③</p> <p>第10回：データ分析と発表準備③</p> <p>第11回：測定機器の学修と研究計画の作成④</p> <p>第12回：データ測定④</p> <p>第13回：データ分析と発表準備④</p> <p>第14回：発表とディスカッション</p> <p>第15回：まとめ</p> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: top;"> <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>金原一宏</p> <p>金原一宏、俵祐一</p> <p>金原一宏、俵祐一</p> <p>金原一宏、俵祐一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>吉本好延</p> <p>吉本好延</p> <p>吉本好延</p> <p>矢倉千昭</p> <p>大城昌平</p> </td> </tr> </table> <p>第1回目の授業で、授業参加者の関心のある研究について検討し、授業全体のプランニングをします。事前に各自の関心テーマを考え、第1回目の授業に参加してください。</p> <p>第2回目以降は、学内にある機器の測定方法を学び、授業プランに沿って実際に簡単な研究計画を立て、データを測定し、発表とディスカッションを行います。</p> <p>研究進捗状況報告会、研究計画報告会の開催前の授業では、受講者と教員が全員参加し、各自の研究課題、研究計画の発表会を行います。余裕を持って授業計画を立ててください。</p> <p>講義では、ディスカッションや演習がありますので遠隔地授業の対象にはなりません。</p>	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、教員紹介</p> <p>第2回：測定機器の学修と研究計画の作成①</p> <p>第3回：データ測定①</p> <p>第4回：データ分析と発表準備①</p> <p>第5回：測定機器の学修と研究計画の作成②</p> <p>第6回：データ測定②</p> <p>第7回：データ分析と発表準備②</p> <p>第8回：測定機器の学修と研究計画の作成③</p> <p>第9回：データ測定③</p> <p>第10回：データ分析と発表準備③</p> <p>第11回：測定機器の学修と研究計画の作成④</p> <p>第12回：データ測定④</p> <p>第13回：データ分析と発表準備④</p> <p>第14回：発表とディスカッション</p> <p>第15回：まとめ</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>金原一宏</p> <p>金原一宏、俵祐一</p> <p>金原一宏、俵祐一</p> <p>金原一宏、俵祐一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>吉本好延</p> <p>吉本好延</p> <p>吉本好延</p> <p>矢倉千昭</p> <p>大城昌平</p>
<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、教員紹介</p> <p>第2回：測定機器の学修と研究計画の作成①</p> <p>第3回：データ測定①</p> <p>第4回：データ分析と発表準備①</p> <p>第5回：測定機器の学修と研究計画の作成②</p> <p>第6回：データ測定②</p> <p>第7回：データ分析と発表準備②</p> <p>第8回：測定機器の学修と研究計画の作成③</p> <p>第9回：データ測定③</p> <p>第10回：データ分析と発表準備③</p> <p>第11回：測定機器の学修と研究計画の作成④</p> <p>第12回：データ測定④</p> <p>第13回：データ分析と発表準備④</p> <p>第14回：発表とディスカッション</p> <p>第15回：まとめ</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>金原一宏</p> <p>金原一宏、俵祐一</p> <p>金原一宏、俵祐一</p> <p>金原一宏、俵祐一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>吉本好延</p> <p>吉本好延</p> <p>吉本好延</p> <p>矢倉千昭</p> <p>大城昌平</p>		

学修方法	院生間で課題解決（論文の検索、研究方法の吟味、データの測定と解析）を図る
評価方法	課題の取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）
課題に対するフィードバック	各担当教員より、発表とディスカッションの際、フィードバックする
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	測定機器の原理、先行研究での測定方法、信頼性と妥当性の検証などを理解し、測定を実施する
オフィスアワー	リハビリテーション科学研究科、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します

科目名	理学療法科学特論演習
科目責任者	根地嶋誠
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春semester
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる
科目概要	理学療法科学特論をふまえ、理学療法の対象となる事象について科学的に検証できるように研究計画立案する。研究テーマに関連する先行研究の収集および批判的吟味を行い、概念枠組みを作成しながら、テーマおよび周辺状況の現状と課題を、グループディスカッションを通じて明らかにする。また、研究仮説を検証するための方法論を検討し、研究計画書の作成を行う。
到達目標	1. 自身の研究テーマに関する文献を批判的に吟味して理解し、テーマを設定する。 2. 研究テーマの現状と課題を明らかにし、概念枠組みから研究計画書を立案する。 3. 研究計画書（倫理委員会申請書を含む）を作成し、研究の実施計画を立てる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 根地嶋誠、大城昌平、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、金原一宏、俵祐一（すべての授業を全教員で担当する）</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマの設定、関連図の作成(1) 第3回：研究テーマの設定、関連図の作成(2) 第4回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(1) 第5回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(2) 第6回：先行研究の調査と整理(1) 第7回：先行研究の調査と整理(2) 第8回：先行研究の調査と整理(3) 第9回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(1) 第10回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(2) 第11回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(3) 第12回：研究計画の作成(1) 第13回：研究計画の作成(2) 第14回：予備研究と倫理申請書の作成(1) 第15回：予備研究と倫理申請書の作成(2)</p>

学修方法	文献レビュー，プレゼンテーション，ディスカッションを実施する。
評価方法	課題のプレゼンテーション（30%）、研究計画の立案（20%）、研究計画書（倫理委員会申請書を含む）の完成（30%）、予備実験の実施（20%）
課題に対するフィードバック	各回のプレゼンテーション時にフィードバックを行う。計画書等の文書等の提出毎にフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索、精読し、独創的な研究テーマや研究方法について、知識及び理解を進めること。授業を通じ、研究テーマおよび研究方法を検討し、研究計画書および実験を進めてください。
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション科学研究科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します



学修方法	授業では講義とディスカッションをもとに進めますので、各授業テーマについて事前学習を行い積極的な授業参加をお願いします。
評価方法	課題への取り組みと発表（50%）、ディスカッションへの参加状況（50%）
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	時間割を参照して、各授業におけるテーマを事前に学習し、授業に参加してください。
オフィスアワー	3509 研究室 毎週水曜日 17時～18時

科目名	理学療法開発学特論Ⅱ		
科目責任者	有菌 信一		
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋		
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる		
科目概要	神経系、運動器系および内部系障害の理学療法について、臨床での疑問、課題を解決するための科学的理論を背景とする検証技術を学修し、新たな理学療法の評価および治療法を開発するための基本的な基盤を作ります。さらに、質的および量的研究、ケーススタディ、観察および介入研究などの臨床研究で必要な研究方法、効果検証を学修します。		
到達目標	実験的な研究手法による研究課題、新しい理学療法教育について、先行研究を探索し、研究の背景および目的、それを解決するための研究手法を発表し、ディスカッションできる。		
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞		
	＜担当教員名＞		
	第1回	オリエンテーション	有菌信一
	第2回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	俵祐一
	第3回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	俵祐一
	第4回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	大城昌平
	第5回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	大城昌平
	第6回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	矢倉千昭
	第7回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	矢倉千昭
	第8回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	矢倉千昭
	第9回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	吉本好延
	第10回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	吉本好延
	第11回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	金原一宏
	第12回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	金原一宏
	第13回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	根地嶋誠
	第14回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション	根地嶋誠
第15回	まとめ	有菌信一	
<p>第1回目の授業で、授業参加者の関心のある領域に関連した研究について検討し、授業全体のプランニングをします。事前に各自の関心テーマを考え、第1回目の授業に参加してください。第2-15回目までは、授業プランに沿った文献紹介とテーマに関する課題発表を輪番で行います。</p>			

学修方法	第1回目の授業で、授業参加者の関心のある領域に関連した研究について検討し、授業全体のプランニングをします。事前に各自の関心テーマを考え、第1回目の授業に参加してください。第2-15回目までは、授業プランに沿った文献紹介とテーマに関する課題発表を輪番で行います。
評価方法	課題の取り組み (50%), プレゼンテーション (50%)
課題に対するフィードバック	論文の検索, 研究方法の吟味, データの測定と解析, 発表とディスカッション
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	授業課題, 研究課題に関係する論文などを探索し, 理学療法に関する研究領域を学び, 修士研究のテーマ, 研究方法を検討する。
オフィスアワー	所属: リハビリテーション科学研究科 研究室: 3503 研究室 時間については, 初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。



学修方法	授業では講義とディスカッションをもとに進めますので、積極的な授業参加をお願いします。
評価方法	課題への取り組みと発表（50%）、ディスカッションへの参加状況（50%）
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	事前学習は、自身の興味関心のある分野の論文等を探索し、研究テーマの現状を明らかにしてください。事後学習は、一連の研究の流れを踏まえて、独創的研究テーマの設定および研究仮説を明らかにするための研究方法を検討し、研究計画書を完成させてください。
オフィスアワー	3509 研究室 毎週水曜日 17時～18時

科目名	理学療法学特別研究	
研究指導教員	有菌信一、大城昌平、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、俵祐一 (研究指導教員は領域および課題によって決まる)	
研究指導教員		
単位数他	8単位数 (120時間) 通年	
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 7. 学際かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる	
科目概要	研究計画書にもとづき、データ集や論文作成など研究プロセスを経験し、科学的根拠に基づいた理学療法評価・治療の立案を目的とした臨床理学療法研究を行い、修士論文を作成する。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>1 年次春semester：リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。</p>	<p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)</p>
	<p>1 年次秋semester：春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。</p>	<p>発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)</p>
	<p>2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。</p>	<p>研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)</p>
	<p>2 年次秋semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。</p>	<p>論文の完成度 (70%) 第三者の評価による修正の貞節性 (30%)</p>

学修方法	個別指導と、院生全体ミーティングにより各自の研究進捗を確認する。
評価方法	上記、右欄に示した評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会の途中で教員が随時補足していく</li> <li>・教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う</li> </ul>
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	事前学習は、研究の方法論だけでなく、研究者としての態度や倫理について書籍やメディアを通じて学んでください。事後学習は、研究の方法論や論文作成方法などを復習し、どのようにすれば自分の主張を他者に伝達し、理解を促すことができるのかを模索してください。
オフィスアワー	初回授業時に提示

科目名	作業療法科学特論 I	
科目責任者	田島明子	
単位数他	2 単位 (30 時間) 領域所属学生必修・他領域学生選択 春semester	
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる	
科目概要	作業療法の実践、教育、研究の基盤となる作業科学及び作業療法諸理論について、その概念枠組み、評価法、実践的研究等について学ぶ。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業科学及び作業療法の核となる概念を学ぶ</li> <li>・主要な理論を学ぶ</li> <li>・先人の研究を購読し、概念や理論を理解する</li> </ul>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション：このコース全体の説明</p> <p>第 2 回：作業を研究する学問としての作業科学 作業療法と作業科学の歴史</p> <p>第 3 回：科学革命の構造 考え方の枠組”パラダイム” (1)</p> <p>第 4 回：科学革命の構造 考え方の枠組”パラダイム” (2)</p> <p>第 5 回：量的研究の適用と限界 (1)</p> <p>第 6 回：量的研究の適用と限界 (2)</p> <p>第 7 回：システマチックレビューの方法 (1)</p> <p>第 8 回：システマチックレビューの方法 (2)</p> <p>第 9 回：作業の要素、作業過程、作業の力(他の現象との関係) (1)</p> <p>第 10 回：作業の要素、作業過程、作業の力(他の現象との関係) (2)</p> <p>第 11 回：学問の序列と保健医療専門職及び研究アプローチ (1)</p> <p>第 12 回：学問の序列と保健医療専門職及び研究アプローチ (2)</p> <p>第 13 回：質的研究 理論と実際(1)</p> <p>第 14 回：質的研究 理論と実際(2)</p> <p>第 15 回：学生抄読</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>田島明子</p> <p>田島明子</p> <p>中島ともみ</p> <p>中島ともみ</p> <p>中島ともみ</p> <p>中島ともみ</p> <p>中島ともみ</p> <p>中島ともみ</p> <p>富澤涼子</p> <p>富澤涼子</p> <p>田島明子</p> <p>田島明子</p> <p>田島明子</p> <p>田島明子</p> <p>田島明子</p>

学修方法	講義、ディスカッション、レジュメ作成、発表
評価方法	授業・ディスカッションへの参加（発言内容・論理性・量・態度）：50% 発表とレジュメ：25%                      レポート：25%
課題に対するフィードバック	ディスカッションとレポートにて、自分の研究疑問を深めるようにコメントが与えられる
指定図書	1. 作業科学：Zemke & Clark 編 1999、三輪書店
参考書	1. トマスン：科学革命の構造. みすず書房 2. 山根寛：言葉の力・作業の力、作業療法覚書 3. 宮前珠子：作業療法理論の成り立ちと位置づけ. 作業療法のとらえ方 part 2.1-9. 文光堂 4. 田島明子：日本における作業療法の現代史. 生活書院
事前・事後学修	各回の授業に関連する指定図書の部分を読んでから、参加する。
オフィスアワー	所属学：リハビリテーション科学研究科 研究室：3515 研究室 時間等：毎週水曜日 13 時～14 時（他の時間でもアポを取って頂ければ大丈夫です）

科目名	作業療法科学特論Ⅱ																		
科目責任者	田島 明子																		
単位数他	2単位 (30時間) 領域所属学生必修・他領域学生選択 秋semester																		
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる																		
科目概要	作業療法専門職の実践、教育、研究の基盤となる作業科学及び作業療法諸理論について、その概念枠組み、評価法、実践的研究等について学ぶ。																		
到達目標	1. 受講者が近年の作業療法科学の知識・理論の進歩について説明出来る 2. 受講者がクライアントの作業的問題を捉え分析、評価できる 3. 受講者がOTとして作業的存在としてクライアントを捉えることの重要性を理解する																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1- 2 回：作業療法理論の概観、実践モデル</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第 3- 4 回：作業的存在とは何か</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第 5- 6 回：作業療法の定義と作業科学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第 7- 8 回：作業療法士教育における作業科学の存在</td> <td>中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第 9-10 回：OT I PM、AMP S、E S I</td> <td>吉川ひろみ</td> </tr> <tr> <td>第 11-12 回：日課と習慣、役割</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第 13-14 回：関連知識、実践での理論の利用</td> <td>富澤涼子</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：MTDLP と作業科学</td> <td>中島ともみ</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1- 2 回：作業療法理論の概観、実践モデル	田島明子	第 3- 4 回：作業的存在とは何か	田島明子	第 5- 6 回：作業療法の定義と作業科学	中島ともみ	第 7- 8 回：作業療法士教育における作業科学の存在	中島ともみ	第 9-10 回：OT I PM、AMP S、E S I	吉川ひろみ	第 11-12 回：日課と習慣、役割	田島明子	第 13-14 回：関連知識、実践での理論の利用	富澤涼子	第 15 回：MTDLP と作業科学	中島ともみ
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第 1- 2 回：作業療法理論の概観、実践モデル	田島明子																		
第 3- 4 回：作業的存在とは何か	田島明子																		
第 5- 6 回：作業療法の定義と作業科学	中島ともみ																		
第 7- 8 回：作業療法士教育における作業科学の存在	中島ともみ																		
第 9-10 回：OT I PM、AMP S、E S I	吉川ひろみ																		
第 11-12 回：日課と習慣、役割	田島明子																		
第 13-14 回：関連知識、実践での理論の利用	富澤涼子																		
第 15 回：MTDLP と作業科学	中島ともみ																		



科目名	作業療法科学特論演習
科目責任者	中島ともみ
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる
科目概要	各自の研究疑問を明らかにし、研究疑問に関する文献を検索、読み、文献カードを作成、文献のレビューとディスカッションを通して研究目的、方法を明確にし、研究計画を完成させる。
到達目標	1. 関心をもつ研究領域における研究動向や研究課題について説明できる。 2. 研究テーマにおける研究課題について、研究計画書を作成できる。
授業計画	<p>※授業日程は、受講者との相談の上、調整いたします。</p> <p>第1回：オリエンテーション 研究のプロセスと研究方法 報告および論文作成の基本的知識</p> <p>第2回：関心テーマについて、文献検索、文献抄読</p> <p>第3回：研究疑問の発表とディスカッション</p> <p>第4回：〃</p> <p>第5回：研究方法についての発表とディスカッション</p> <p>第6回：〃</p> <p>第7回：研究課題についての発表とディスカッション</p> <p>第8回：〃</p> <p>第9回：倫理的配慮とデータ収集方法・分析方法</p> <p>第10回：予備研究と研究計画書</p> <p>第11回：〃</p> <p>第12回：計画書についての発表とディスカッション</p> <p>第13回：〃</p> <p>第14回：倫理申請について</p> <p>第15回：まとめ</p>

学修方法	講義、ディスカッション、レジュメ作成、発表を通して学修を進めます。 関心領域の論文を精読し、研究方法（対象、手続き、評価尺度、分析方法など）を、ディスカッションを通して吟味し、具体的な研究計画書を作成していただきます。
評価方法	研究計画書の完成度（80%） ディスカッションでの発言内容・論理性・量・態度（20%）
課題に対するフィードバック	講義内でのフィードバックにて行います。
指定図書	抱井 尚子：混合研究法入門 質と量による統合のアート 医学書院
参考書	Suzan K. Groveら：バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版 エルゼビア・ジャパン
事前・事後学修	事前学修：各回において課題の事前のテーマを示す 事後学修：報告後に指摘された内容を修正する
オフィスアワー	研究室は3516研究室。オフィスアワーの曜日と時間は初回授業時間に提示します。 メールでいつでもご連絡ください（tomomi-n@seirei.ac.jp）

科目名	作業療法科学特論演習
科目責任者	田島明子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置 付け	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる
科目概要	具体的実践事例を選定し、その実践の特徴を構造的に理解するための小規模な研究を行う。
到達目標	作業療法、特に地域での実践手法を一般化するための研究の方法を取得することを目指す。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第 1 回：研究法と論文執筆について</p> <p>第 2-5 回：作業療法学についての研究動向</p> <p>第 6-8 回：研究・分析方法の選定</p> <p>第 9-11 回：具体的実践事例の紹介と研究・分析方法の検討</p> <p>第 12-14 回：進捗状況の報告と検討</p> <p>第 15 回：学生によるミニスタディの発表</p>

評価方法	講義への参加状況 30% 発表とレジュメ 40% レポート 30%
課題に対するフィードバック	授業時間内でフィードバックする
指定図書	ウヴェ・フリック 2011 『新版 質的研究入門—<人間科学>のための方法論』 春秋社 萱間真美 2007 『質的研究実践ノート—研究プロセスを進める clue とポイント』 医学書院
参考書	適宜、講義のなかで紹介する
学修方法	具体的事例を分析しながら作業療法開発学研究の構造的理解をしていく
事前学習・課題等	事前、事後学修の課題は講義内で適宜指示する
オフィスアワー	2019 年度のオフィスアワーについては初回講義の際に提示します

科目名	作業療法開発学特論 I																																
科目責任者	新宮 尚人																																
単位数他	2単位( 30 時間) 選択 春semester																																
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる																																
科目概要	作業療法関連領域における最新の研究動向に触れ、臨床における解決すべき課題について検討する。また研究論文の精読を通じて、研究疑問をどのように検証可能な形で表現するか、データに基づく分析とはどのようなものか、研究の基本的要素について理解することを目指す。																																
到達目標	1. 関心のある分野における研究動向や研究課題について説明できる 2. 各領域における研究課題について、検証方法、分析方法を説明、作成できる。																																
授業計画	<p>担当教員：伊藤信寿、新宮尚人、泉良太</p> <p>教員より各専門領域における最新の研究動向について解説する。履修生は、それを踏まえ関連する国内・外の文献を読み、内容について簡単なレジュメを作成して紹介する。文献を通じて、研究疑問の操作定義、データ収集と分析方法、結果の記述と解釈など、研究論文の基本的構成要素を理解することで自身の研究計画立案の足がかりとする。 ※少なくとも1つの領域で1文献を紹介する。 履修生の専攻・関心により文献選択の相談に応じる。</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション</td> <td>新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第2回：精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について</td> <td>新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第3回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1</td> <td>新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第4回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2</td> <td>新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第5回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3</td> <td>新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第6回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 4、まとめ</td> <td>新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第7回：発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第8回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第9回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第10回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3 まとめ</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第11回：身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第12回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第13回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第14回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第15回：全体のまとめ</td> <td>新宮尚人</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：コースオリエンテーション	新宮尚人	第2回：精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	新宮尚人	第3回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	新宮尚人	第4回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	新宮尚人	第5回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	新宮尚人	第6回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 4、まとめ	新宮尚人	第7回：発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	伊藤信寿	第8回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	伊藤信寿	第9回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	伊藤信寿	第10回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3 まとめ	伊藤信寿	第11回：身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	泉 良太	第12回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	泉 良太	第13回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	泉 良太	第14回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	泉 良太	第15回：全体のまとめ	新宮尚人
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回：コースオリエンテーション	新宮尚人																																
第2回：精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	新宮尚人																																
第3回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	新宮尚人																																
第4回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	新宮尚人																																
第5回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	新宮尚人																																
第6回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 4、まとめ	新宮尚人																																
第7回：発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	伊藤信寿																																
第8回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	伊藤信寿																																
第9回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	伊藤信寿																																
第10回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3 まとめ	伊藤信寿																																
第11回：身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	泉 良太																																
第12回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	泉 良太																																
第13回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	泉 良太																																
第14回：関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	泉 良太																																
第15回：全体のまとめ	新宮尚人																																

学修方法	講義、ディスカッション、報告を中心に進める
評価方法	発表内容（80%）と、ディスカッションへの参加状況（20%）により評価する
課題に対するフィードバック	課題の報告後に、フィードバックを行う
指定図書	特に指定しない
参考書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・事後学修	事前学修：オリエンテーション時に、各回において課題の事前のテーマを示す 事後学修：報告後に指摘された内容を修正する
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3501 もしくはリハビリテーション学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ <a href="mailto:naohito-s@seirei.ac.jp">naohito-s@seirei.ac.jp</a> ）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	作業療法開発学特論Ⅱ																																	
科目責任者	伊藤 信寿																																	
単位数他	2単位( 30 時間) 選択 秋semester																																	
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる																																	
科目概要	作業療法関連領域における最新の研究動向に触れ、臨床における解決すべき課題について検討する。さらに関心をもつ研究テーマ、研究課題について、検証方法、データに基づく分析方法を作成することを目標とする。																																	
到達目標	1. 関心のある分野における研究動向や研究課題について説明できる。 2. 各領域における研究課題について、検証方法、分析方法を説明、作成できる。																																	
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 伊藤信寿、新宮尚人、泉良太</p> <p>最新の文献を読みながら、各領域において履修生が関心をもつ研究テーマについて、簡単なレジュメを作成して紹介し、ディスカッションする。さらに、各領域における関心のある研究テーマについて、研究デザインを作成、検討する。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th style="text-align: center;">&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回. コースオリエンテーション</td> <td style="text-align: center;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第2回. 発達領域における研究デザインの作成・検討1</td> <td style="text-align: center;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第3回. 発達領域における研究デザインの作成・検討2</td> <td style="text-align: center;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第4回. 発達領域における研究デザインの作成・検討3</td> <td style="text-align: center;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第5回. 発達領域における研究デザインの作成・検討4</td> <td style="text-align: center;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第6回. 身体領域における研究デザインの作成・検討1</td> <td style="text-align: center;">泉良太</td> </tr> <tr> <td>第7回. 身体領域における研究デザインの作成・検討2</td> <td style="text-align: center;">泉良太</td> </tr> <tr> <td>第8回. 身体領域における研究デザインの作成・検討3</td> <td style="text-align: center;">泉良太</td> </tr> <tr> <td>第9回. 身体領域における研究デザインの作成・検討4</td> <td style="text-align: center;">泉良太</td> </tr> <tr> <td>第10回. 精神領域における研究デザインの作成・検討1</td> <td style="text-align: center;">新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第11回. 精神領域における研究デザインの作成・検討2</td> <td style="text-align: center;">新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第12回. 精神領域における研究デザインの作成・検討3</td> <td style="text-align: center;">新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第13回. 精神領域における研究デザインの作成・検討4</td> <td style="text-align: center;">新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第14回. 地域領域における研究デザインの作成・検討1</td> <td style="text-align: center;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第15回. 地域領域における研究デザインの作成・検討2</td> <td style="text-align: center;">伊藤信寿</td> </tr> </tbody> </table>		<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回. コースオリエンテーション	伊藤信寿	第2回. 発達領域における研究デザインの作成・検討1	伊藤信寿	第3回. 発達領域における研究デザインの作成・検討2	伊藤信寿	第4回. 発達領域における研究デザインの作成・検討3	伊藤信寿	第5回. 発達領域における研究デザインの作成・検討4	伊藤信寿	第6回. 身体領域における研究デザインの作成・検討1	泉良太	第7回. 身体領域における研究デザインの作成・検討2	泉良太	第8回. 身体領域における研究デザインの作成・検討3	泉良太	第9回. 身体領域における研究デザインの作成・検討4	泉良太	第10回. 精神領域における研究デザインの作成・検討1	新宮尚人	第11回. 精神領域における研究デザインの作成・検討2	新宮尚人	第12回. 精神領域における研究デザインの作成・検討3	新宮尚人	第13回. 精神領域における研究デザインの作成・検討4	新宮尚人	第14回. 地域領域における研究デザインの作成・検討1	伊藤信寿	第15回. 地域領域における研究デザインの作成・検討2	伊藤信寿
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																	
第1回. コースオリエンテーション	伊藤信寿																																	
第2回. 発達領域における研究デザインの作成・検討1	伊藤信寿																																	
第3回. 発達領域における研究デザインの作成・検討2	伊藤信寿																																	
第4回. 発達領域における研究デザインの作成・検討3	伊藤信寿																																	
第5回. 発達領域における研究デザインの作成・検討4	伊藤信寿																																	
第6回. 身体領域における研究デザインの作成・検討1	泉良太																																	
第7回. 身体領域における研究デザインの作成・検討2	泉良太																																	
第8回. 身体領域における研究デザインの作成・検討3	泉良太																																	
第9回. 身体領域における研究デザインの作成・検討4	泉良太																																	
第10回. 精神領域における研究デザインの作成・検討1	新宮尚人																																	
第11回. 精神領域における研究デザインの作成・検討2	新宮尚人																																	
第12回. 精神領域における研究デザインの作成・検討3	新宮尚人																																	
第13回. 精神領域における研究デザインの作成・検討4	新宮尚人																																	
第14回. 地域領域における研究デザインの作成・検討1	伊藤信寿																																	
第15回. 地域領域における研究デザインの作成・検討2	伊藤信寿																																	

学修方法	講義、ディスカッション、報告を中心に進める
評価方法	発表内容（70%）と、ディスカッションへの参加状況（30%）により評価する
課題に対するフィードバック	課題の報告後にフィードバックを行う
指定図書	なし
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：オリエンテーション時に、各回において課題の事前のテーマを示す 事後学修：報告後に指摘された内容を修正する
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3514 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	作業療法開発学特論演習
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	2単位( 30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる
科目概要	関心をもつ研究テーマ、研究課題について、検証方法、データに基づく分析方法を作成することを目標とする。さらに、アウトカムを意識した研究デザインの構築や独創性のある研究計画書作成への足掛かりとすることを旨とする。
到達目標	1. 関心をもつ研究領域における研究動向や研究課題について説明できる 2. 研究テーマにおける研究課題について、研究計画書を作成できる。
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 伊藤信寿</p> <p>関心をもつ研究テーマについて、文献検索、内容について簡単なレジュメを作成して紹介し、ディスカッションする。さらに、各領域における関心のある研究テーマについて、研究デザインを作成、検討する。</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回. コースオリエンテーション</p> <p>第2回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読1</p> <p>第3回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読2</p> <p>第4回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読3</p> <p>第5回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読4</p> <p>第6回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読5</p> <p>第7回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討1</p> <p>第8回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討2</p> <p>第9回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討3</p> <p>第10回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討4</p> <p>第11回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討5</p> <p>第12回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討6</p> <p>第13回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討7</p> <p>第14回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討8</p> <p>第15回. 全体のまとめ</p>

学修方法	ディスカッション、報告を中心に進める
評価方法	レジュメの作成（50%）と、発表内容（50%）により評価する
課題に対するフィードバック	課題の報告後に、フィードバックを行う
指定図書	なし
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：各回において課題の事前のテーマを示す 事後学修：報告後に指摘された内容を修正する
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3514 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	作業療法開発学特論演習
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	2単位( 30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる
科目概要	精神障害作業療法における評価とアプローチ法についての文献（特に事例を含むもの）を精読することで、精神障害作業療法領域の課題を見出し研究へと応用できることを目標とする。 研究計画書の作成に向けて、先行研究を吟味・検討した上で、具体的な研究テーマの設定、研究計画の立案を行う。
到達目標	・ 障害の特性を踏まえた基本的な研究プロセスについて説明できる ・ 研究計画書の作成に必要な要素を説明できる
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;  ※授業日程は、受講者との相談の上、決定する</p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション  第 2 回：研究計画立案方法について  第 3 回：研究プロセスとアウトカムについて  第 4 回：評価尺度の信頼性と妥当性  第 5 回：調査票の作成と予備研究  第 6 回：データ収集方法について  第 7 回：データ分析方法について  第 8 回：報告および論文作成の基本的知識  第 9 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング  第 10 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング  第 11 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング  第 12 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング  第 13 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング  第 14 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング  第 15 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング</p>

学修方法	自身の興味に関連した論文を精読し、研究方法（対象、手続き、評価尺度、分析方法など）を吟味することを通じて、具体的な研究計画書を作成します。
評価方法	計画書の完成度（90%）と、ディスカッションへの参加状況（10%）により評価する
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とします。
指定図書	特に指定しない
参考書	授業中に随時提示する
事前・事後学修	事前学習では、研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行ってください。事後学習では、授業時間内でのフィードバックを踏まえて自分の研究計画に反映できるポイントを吟味して下さい。
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3501 研究室もしくはリハビリテーション学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	作業療法開発学特論演習
科目責任者	泉 良太
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる
科目概要	興味・関心のある研究領域の文献レビューを実施し、先行研究と自らの課題との関連性を把握した上で、研究課題についての討論を実施しながら研究計画を立案する。また、研究計画の内容は、臨床での作業療法のエビデンスを証明できるようなものとする。
到達目標	1. 興味・関心をもつ研究領域の研究動向や研究課題について説明できる。 2. 研究課題に沿った、研究計画書を作成できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>※授業日程は、受講者との相談の上、決定する。 ※担当教員と相談の上、遠隔授業可能です。</p> <p>第1回：コースオリエンテーション 第2回：研究の流れについて 第3回：研究計画立案方法について 第4回：先行研究文献レビュー1 第5回：先行研究文献レビュー2 第6回：データ分析方法について1 第7回：データ分析方法について2 第8回：発表方法および論文作成方法について 第9回：研究計画書作成に向けての個別ミーティング 第10回：研究計画書作成に向けての個別ミーティング 第11回：研究計画書作成に向けての個別ミーティング 第12回：研究計画書作成に向けての個別ミーティング 第13回：研究計画書作成に向けての個別ミーティング 第14回：研究計画書作成に向けての個別ミーティング 第15回：研究計画書作成に向けての個別ミーティング</p>

学修方法	興味・関心のある研究論文をレビューし、自らの研究課題について討論を実施しながら、研究計画書を作成する。
評価方法	研究計画書の完成度（80%）と、発表内容（20%）により評価する。
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とする。
指定図書	なし
参考書	授業中に随時提示
事前・事後学修	事前学習：研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行う。 事後学習：授業時間内でのフィードバックを踏まえて、研究計画について吟味する。
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なく連絡をしてください。

科目名	作業療法科学特別研究（博士課程前期）	
科目責任者	新宮尚人 田島明子 伊藤信寿 泉良太 中島ともみ (内、1名が主指導教員を担当)	
単位数他	単位数（時間数） 必修・選択 開講セメスター	
科目の位置付	8単位（120時間） 通年	
科目概要	修士論文を作成するために必要な作業療法学分野の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>1 年次春セメスター：リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。</p>	<p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>討論参加度（30%） 及び課題の焦点化達成度（70%）</p>
	<p>1 年次秋セメスター：春セメスターの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。</p>	<p>発表態度（30%）発表内容及び研究計画書の完成度（70%）</p>
	<p>2 年次春セメスター：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。</p>	<p>研究計画の倫理的配慮の精度（40%）データ収集の適切性（30%）、データ分析の論理性・技法の適切性（30%）</p>
	<p>2 年次秋セメスター：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。</p>	<p>論文の完成度（70%） 第三者の評価による修正の貞節性（30%）</p>

アクティブ ラーニング	ディスカッション、発表を通して行う
評価方法	上記、右欄に示した評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対する フィード バック	口頭によるコメント、書面提出物についてはコメントを記載し迅速にフィードバックする
指定図書	特に指定しない
参考書	授業中に随時提示する
事前・ 事後学修	随時指定
オフィス アワー	初回授業時に提示しますが、提示の時間以外でもメールでアポイントを取ってください。

科目名	言語聴覚障害学特論 I
科目責任者	大原 重洋
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	言語獲得前の聴覚障害によって言語、心理、社会的課題が子どもに生ずる機序について、体系的に学び、専門的知識を深めることを目標とする。
到達目標	1. 小児聴覚障害学や言語発達障害学に関する主要な理論と新しい知見を体系的に理解する。 2. 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけ、視野を広げる
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 大原 重洋、小林 マヤ</p> <p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：正常な聴覚機能のメカニズムについて①</p> <p>第 3 回：新生児聴覚スクリーニングによる早期難聴発見の効果と医学的課題②</p> <p>第 4 回：乳幼児期の聴力評価法</p> <p>第 5 回：聴覚補償</p> <p>第 6 回：文献抄読：乳児期から学童期の言語発達</p> <p>第 7 回：文献抄読：メタ認知の発達と遅れ</p> <p>第 8 回：文献抄読：ナラティブの評価と発達</p> <p>第 9 回：幼児期の言語発達と障害</p> <p>第 10 回：学童期の読み書きと学習と障害</p> <p>第 11 回：特異的言語発達障害の評価と指導・支援</p> <p>第 12 回：学習障害の評価と指導・支援</p> <p>第 13 回：文献抄読：言語獲得理論</p> <p>第 14 回：文献抄読：特異的言語発達障害</p> <p>第 15 回：文献抄読：言語発達障害治療学</p> <p>第 1～8：大原、第 9～15：小林</p>

学修方法	講義、発表、討論
評価方法	授業参加状況 30%、文献抄読・発表・レポート 70%
課題に対するフィードバック	授業内容についての疑問点については、その場でフィードバックする。発表資料、レポートについては、資料を校閲し返却する。
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	指定した文献を読んで、内容と疑問点を纏める。
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	言語聴覚障害学特論Ⅱ
科目責任者	谷哲夫
単位数他	2単位(30時間) 選択 秋semester
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	失語症学およびその治療法に関して最新の理論を含め総合的な理解と知識の体系化を図ります。高次脳機能障害や認知症の症状、臨床とリハビリテーションについて理解と知識の体系化を図ります。また、実践的な医療技術や研究方法の修得を行うとともに、新たな評価や治療方法の開発について研究し、失語症学分野および高次脳機能障害や認知症における高度な臨床技術の実践や科学的研究のできる人材の育成を目指します。
到達目標	失語症学、高次脳機能障害や認知症に関する新知見を体系的に理解する。 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけ、視野を広げる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 佐藤順子・谷 哲夫</p> <p>第2回：さまざまな言語症状について 谷 哲夫</p> <p>第3回：失語症の古典的分類と臨床への応用 谷 哲夫</p> <p>第4回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用 谷 哲夫</p> <p>第5回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用 谷 哲夫</p> <p>第6回：失語症の予後・改善要因の研究 谷 哲夫</p> <p>第7回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果 谷 哲夫</p> <p>第8回：失語症者・家族の置かれている環境 谷 哲夫</p> <p>第9回：様々な高次脳機能障害について 佐藤順子</p> <p>第10回：記憶障害の症状と診断 佐藤順子</p> <p>第11回：記憶障害の臨床とリハビリテーション 佐藤順子</p> <p>第12回：前頭葉機能障害の症状と診断 佐藤順子</p> <p>第13回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション 佐藤順子</p> <p>第14回：認知症研の症状と診断 佐藤順子</p> <p>第15回：認知症の臨床とリハビリテーション 佐藤順子</p>

学修方法	講義および討論
評価方法	授業参加状況 30% 文献抄読・レポート 70%
課題に対するフィードバック	授業の中で適宜行う
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学 第2版」医学書院 藤田郁代、阿部晶子編集「高次脳機能障害学 第2版」医学書院
参考書	授業の中で適宜紹介をする
事前・事後学修	資料の事前配布 教科書の予習 授業の中で適宜指示する
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 佐藤順子：3407 研究室 毎週月曜日 IV限 (junko-sa@seirei.ac.jp) 谷 哲夫：3406 研究室 毎週月曜日 III限 (tetsuo-t@seirei.ac.jp) 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	言語聴覚障害学特論演習
科目責任者	佐藤順子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春semester
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し文献カードを作成する。文献のクリティカル・レビュー、ディスカッションを通して、研究目的、方法を明らかにし、研究計画の立案を行う
到達目標	1. 各種研究法を理解する 2. 客観的な文献レビューができる 3. データの収集、および分析方法について知識を深める
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 佐藤順子, 谷 哲夫, 大原重洋</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 第1回：オリエンテーション 第2回：研究計画立案までの手順について 第3回：研究方法について 第4回：データ収集方法について 第5回：データの分析方法について 第6回-15回：研究計画立案に向けたディスカッション</p>

学修方法	講義および討論（遠隔可）
評価方法	計画書の完成度 90% 主体的参加状況 10%
課題に対するフィードバック	授業の中で適宜行う
指定図書	「言語障害の研究入門」伊藤元信，協同医書，2008 「臨床データのまとめかた」三宅由子，杏林書院，2001
参考書	なし
事前・事後学修	指定図書を事前に読んで理解する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 佐藤順子：3407 研究室 毎週月曜日 IV限 (junko-sa@seirei.ac.jp) 谷 哲夫：3406 研究室 毎週月曜日 III限 (tetsuo-t@seirei.ac.jp) 大原重洋：3305 研究室 毎週月曜日 IV限 (shigehiro-o@seirei.ac.jp) 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	摂食嚥下障害学特論 I
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2 単位 (30 時間) 春セメスター
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	摂食嚥下障害学における新しい理論や病態について体系的に学ぶと共に、専門知識をさらに深めることを目標とする。文献抄読と討論を中心に進める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 摂食嚥下障害に関する新知見を体系的に理解し説明できる。</li> <li>・ 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけることができる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション  第2回：摂食嚥下メカニズム（動物）  第3回：摂食嚥下メカニズム（人間）  第4回：摂食嚥下の神経制御機構  第5回：摂食嚥下機能の発達  第6回：摂食嚥下の評価理論（画像評価・運動学的評価・知覚評価）  第7回：摂食嚥下の評価理論（Evidence based Clinical Assessments）  第8回：神経原性嚥下障害の病態（脳血管疾患）  第9回：神経原生嚥下障害の病態（神経変性疾患）  第10回：呼吸器疾患による嚥下障害の病態  第11回：構造的原因による嚥下障害の病態  第12回：消化器疾患と嚥下障害  第13回：老化と嚥下障害  第14回：医原性嚥下障害  第15回：文献抄読、発表</p>

学修方法	グループ学習やMoodle等を用いて学修を行います。 遠隔システムを用いた学修も可能。
評価方法	授業内容の理解（口頭試問）30%、文献抄読・発表・レポート 70%
課題に対するフィードバック	講義、テキスト・文献を読み、疑問点についてディスカッションします。
指定図書	高橋浩二編：「Groher&Craryの嚙下障害の臨床マネジメント」 医歯薬出版
参考書	適宜紹介します。
事前・事後学修	テキストおよび文献を読んで、まとめてくること。
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	摂食嚥下障害学特論Ⅱ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2単位 (30時間) 秋セメスター
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	摂食嚥下障害学における評価および治療理論について体系的に学ぶと共に、専門知識をさらに深めることを目標とする。文献抄読と討論を中心に進める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食嚥下障害に関する新知見を体系的に理解し説明できる。</li> <li>・文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけることができる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：摂食嚥下障害の評価結果と治療戦略</p> <p>第3回：摂食嚥下障害の治療理論 (Evidence based Practice)</p> <p>第4回：嚥下調整食基準と治療への応用</p> <p>第5回：運動学習理論と運動訓練 (口腔運動訓練・嚥下反射・摂食動作)</p> <p>第6回：神経筋刺激訓練 (電気刺激法・磁気刺激法)</p> <p>第7回：摂食嚥下訓練法と専門的食事介助</p> <p>第8回：摂食嚥下訓練と栄養</p> <p>第9回：外科的治療</p> <p>第10回：服薬方法の選択</p> <p>第11回：口腔衛生と摂食訓練</p> <p>第12回：摂食嚥下障害治療のリスクマネジメント</p> <p>第13回：摂食嚥下訓練への工学的知識の応用 (ゲストスピーカー)</p> <p>第14回：ロボティクスと摂食嚥下リハビリテーション (ゲストスピーカー)</p> <p>第15回：摂食嚥下リハビリテーションと倫理</p>

学修方法	グループ学習やMoodle等を用いて学修を行います。
評価方法	講義理解（口頭試問）30%、文献抄読・発表・レポート 70%
課題に対するフィードバック	講義、テキスト・文献を読み、疑問点についてディスカッションします。
指定図書	藤島一郎・柴本勇：摂食嚥下障害のリスクマネジメント 中山書店
参考書	適宜紹介します。
事前・事後学修	教科書の予習・文献詳読・症例検討
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	摂食嚥下障害学特論演習
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2単位 (30時間) 春semester
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し文献カードを作成する。文献のクリティカル・レビュー、ディスカッションを通して、研究目的、方法を明らかにし、研究計画の立案をおこなう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種研究法を理解し説明できる。</li> <li>・ 客観的な文献レビューができる。</li> <li>・ 研究計画を立案できる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：研究計画立案までの手順について</p> <p>第3回：研究方法について</p> <p>第4回：データの収集方法について</p> <p>第5回：データの分析方法について</p> <p>第6回—15回：研究計画立案に向けたディスカッション</p>

学修方法	グループ学習やMoodle等を用いて学修を行います。 遠隔システムを用いた学修も可能。
評価方法	計画書の完成度（80%）と、ディスカッション内容（20%）により評価する。
課題に対するフィードバック	講義、テキスト・文献を読み、疑問点についてディスカッションします。
指定図書	言語障害の研究入門」伊藤元信、協同医書、2008 「臨床データのまとめかた」三宅由子、杏林書院、2001
参考書	なし
事前・事後学修	教科書の予習・文献詳読
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	言語聴覚学特別研究	
研究指導教員	柴本 勇 佐藤順子 谷 哲夫 大原重洋 小林マヤ (研究指導教員は領域および課題によって決まる)	
研究指導教員		
単位数他	8単位数 (120時間) 通年	
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	修士論文を作成するために必要な言語聴覚学分野の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>1 年次春semester: リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。</p>	<p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)</p>
	<p>1 年次秋semester: 春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。</p>	<p>発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)</p>
	<p>2 年次春semester: 研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。</p>	<p>研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)</p>
	<p>2 年次秋semester: 指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。</p>	<p>論文の完成度 (70%) 第三者の評価による修正の貞節性 (30%)</p>

学修方法	ディスカッション、発表を通して行う
評価方法	上記、右欄に示した評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	口頭によるコメント、書面提出物についてはコメントを記載し迅速にフィードバックする
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	随時指定
オフィスアワー	初回授業時に呈示